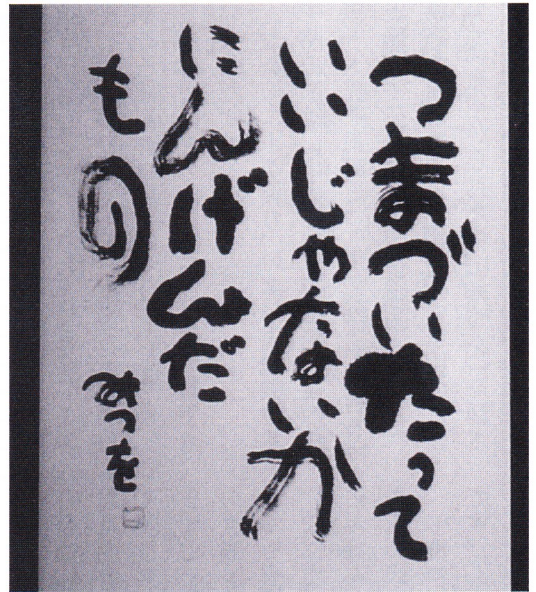
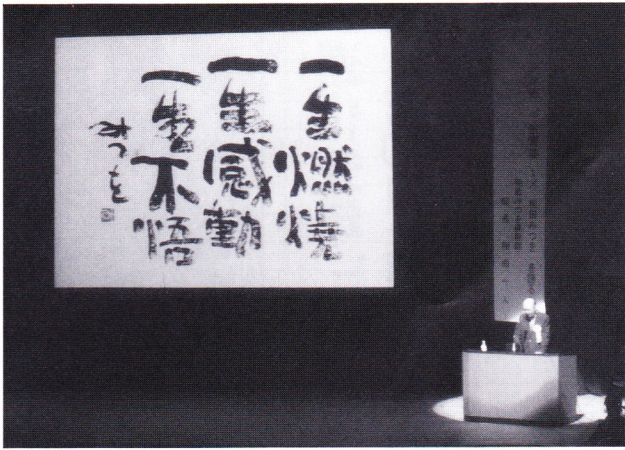


考え方・そろばん教室の役割・早期教育等について、一時間三十分のパネルディスプレイが始まりました。

一、算数教育が目指していること①人間力をきたえる②考えさせ、くりかえしやる③基礎的な事は、見通しをもち、筋道を立てて考えていく④知識及び数学的な考え方を身につける⑤算数の良さを実感させる。

二、算数教育とそろばん①四十年前からそろばん界の危機はあった②計算力がないと応用力が身につかない③そろばん教育の役割として、早期教育が良い④小学校一年生から教具としてそろばんは導入した方が良い

三、そろばん教室の役割①計算力・応



用力は、小さな差がだんだん大きくなる②意欲を育てるのには、とことんほめる。③ゲーム・パズルを応用して頑張らせる④低学年には、はなまるをつけてあげる⑤学年に応じた説明が必要⑥子供の心をおさえてはいけない⑦やる気を持続させる⑧声かけの時「ちゃんとやりなさい」「しっかりしなさい」の言葉ではいけない。大切なのは中身を具体的に話さず、う⑨大人が忍耐力を持つ⑩手をはなしても、目をはなしてはいけない。

四、理解の遅い児童への対応①公立の場合には合理的な配慮をしている②途中で忘れないようにする③子供は情緒的なふれあいを求めている④条件付きのふれあいは良くない⑤物を与えるのは良くない⑥あたたかい心のふれあいが得られないことは人生で最も苦痛になる。

京オリピックに向けて伝統文化である、そろばんを何らかの形で参加させることが出来ないだろうか？  
以上、専門家の先生方のご意見でした。もう少し、これからの珠算教育のあり方についての内容がほしかったと思いましたが。  
最後は「教場における危機管理」のテーマで神奈川県安里利子先生の講演です。教室を存続させる為に後継者を姪子さんにお願ひし、相続させる為の遺言書を作成したそうです。その時の苦労話しをなさいました。  
登下校に関する危機管理では、学年別にカードを保管、登下校メールの導入、バーコードをたっちさせる。  
クレーム回避のための危機管理は、  
①近所からのクレームは駐車場の確保監視カメラの設置、教室にモニターテ

五、むすび①小学校教育

でのそろばんは、スピードを要求しない②塾での指導とは大きく違う③やる気を出させることは教育心理学の基本である④小さな一言でやる気をなくす⑤ワクチン教育(小さい時の失敗の方が大きくなってからの失敗よりも良い)⑥高齢化社会になり、生涯教育の一つとして高齢者へのそろばん指導が良いではないか⑦東

レビを設置

②自然災害に対する危機管理では、平成二十三年にソーラー、LED外灯の設置、平成二十五年蓄電池を導入、平成二十六年太陽光発電設置と色々と研究しているらしいです。これからもそろばんが輝き続けるために「日本そろばん資料館」が出来たことは、すばらしい、そして計算器具から教具へ。珠算技術の向上と海外への発進、伝統の中にも常に新鮮さをとり入れ、日本のそろばんを世界へ発進させましょう。それには、指導者の努力が必要です。と、むすばれました。会員一人一人が努力し、頑張らなければと痛感致しました。

